

ANNUAL REPORT 2024

FRESH ON IDEAS
WILD ON KNOWLEDGE

01-04: Conferences
05: Sustainability
06: Incentives
07: Events
08: Partners

SAPPORO
CONVENTION
BUREAU

MN Bldg.3F,
Kita 1 Nishi 3, Chuo-ku,
Sapporo,

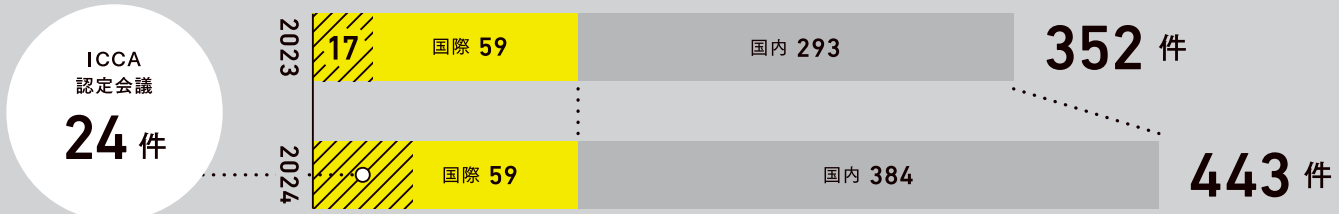
Hokkaido
060-0001
Japan

www.conventionsapporo.jp

コンベンション統計

対象期間：1月～12月

国際・国内会議の開催件数



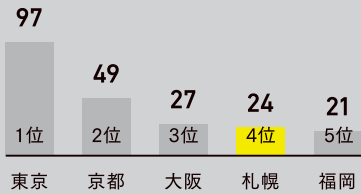
ICCA(国際会議協会)
会議件数/都市ランキング2024

ICCA国際会議統計2024:
2025年5月発表

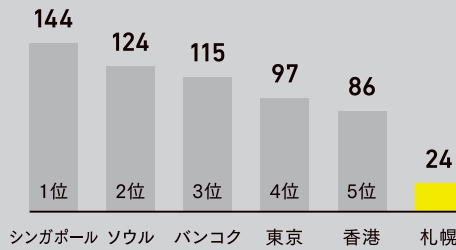
札幌と同じランキングの海外都市:
ボストン、ホーチミン、マルセイユ、パースなど

参考 www.iccaworld.org

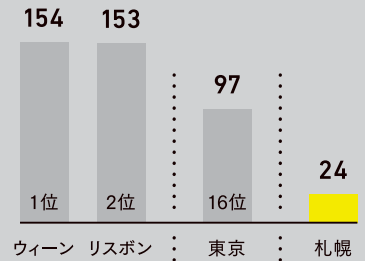
国内 4位



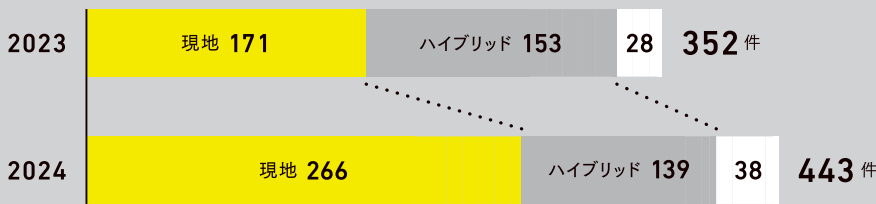
アジア太平洋地域 21位



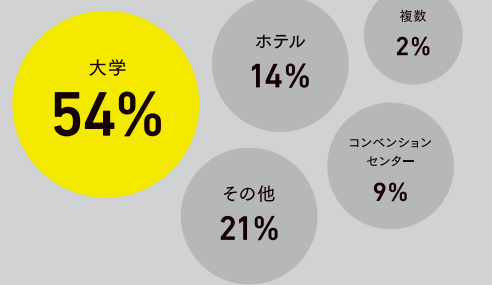
世界 105位



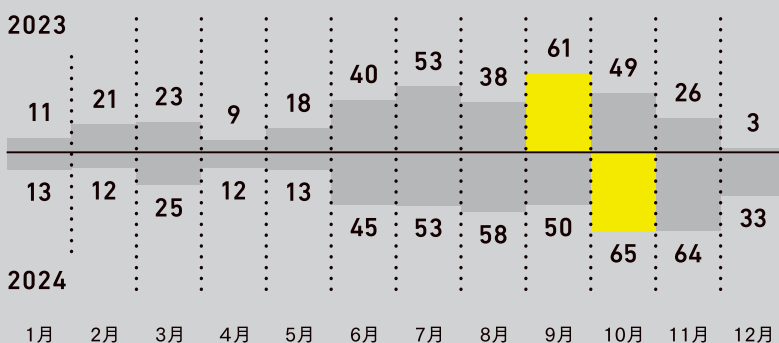
現地/ハイブリッド/オンライン



会場



開催月



開催期間

(2024年)



規模

(2024年)



開催された国内会議

2024.07.25 - 07.27

第32回日本心血管インターベンション
治療学会学術集会(CVIT2024)

@札幌市民交流プラザ、グランドメルキュール札幌大通公園、カナモトホール、
ニューオータニ札幌、札幌商工会議所 / 参加者数: 5,935名

2024年夏、札幌中心部の5施設を使用して6,000名規模の国内会議が開催されました。会議の総合受付は、札幌文化芸術劇場hitaru(ヒタル)や札幌市図書・情報館などを擁する文化複合施設・札幌市民交流プラザに設置され、市民が自由に行き来するオープンな環境のもと、工夫を凝らした大型コンベンションが実施されました。



©CVIT2024

イベント詳細

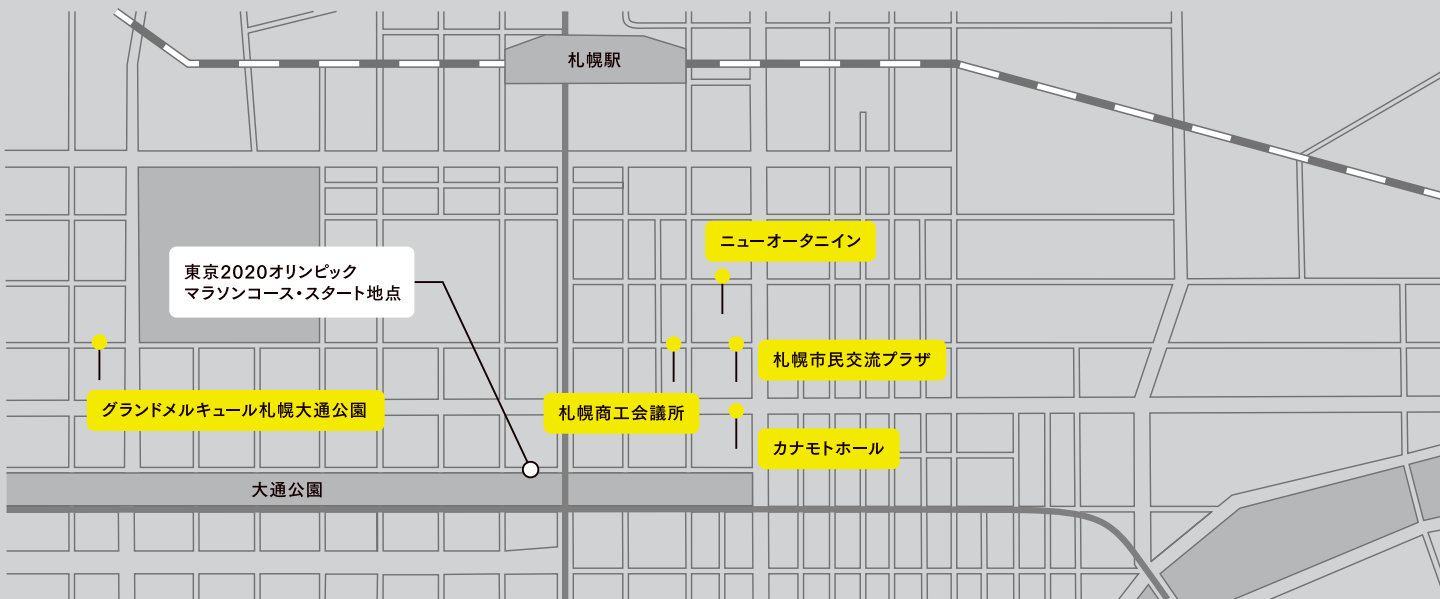
www.congre.co.jp/cvit2024

ウォーカブルシティ札幌 移動を支えたシャトルバス

札幌は夏でも比較的涼しく、中心部には大通公園をはじめ街路樹も多い、緑豊かな街です。開催期間中は、学会関係者らが大通公園を散策する姿も数多く見られました。札幌市民交流プラザとグランドメルキュール間は約1.5kmあるため、移動手段としてシャトルバス8台を用意。札幌市シャトルバス助成金もご活用いただき、スムーズな会議開催をサポートしました。

オリンピックコースを楽しむ SAPPORO RUN

ソーシャルプログラムでは、CVIT参加者が東京2020オリンピックのマラソンコースの一部(約6km)を走るSAPPORO RUNが開催されました。コースの途中にはオリンピックを記念する銘板が設置された箇所もあり、ランナー達はオリンピックの軌跡を辿りながら早朝の札幌を爽快に駆け抜けました。



複数施設活用の可能性に期待

会議運営会社からは「今回初めて利用する施設もあり緊張して臨んだが、成功裏に終了できてほっとしている」との声も届いています。複数の施設にまたがるダイナミックな開催スタイルは、今後も続いていきそうです。

想定される経済波及効果



18 億円

※観光庁MICE簡易測定モデル



今後開催される大型コンベンション

2025年

2026年

2027年

国際

12,000 名 4 会場

国内

8,000 名 4 会場

10,000 名 3 会場

8,000 名 4 会場

開催された国際会議

2024.07.08 - 07.12

第9回全球エネルギー水循環プロジェクト
国際会議(GEWEX-OSC 2024)

@京王プラザホテル札幌 / 参加者数: 1,283名、46か国・地域

全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議は、地球規模の気候変動が水やエネルギーの循環に及ぼす影響について研究する国際会議です。今回は会議史上初の日本開催が札幌で実現。水循環科学や気候変動に関する日本の先駆的研究と社会での応用事例が紹介されました。

豊平峡ダム視察

会期中、本会議のテーマである「水循環」や「気候変動」に関する科学的知見の応用事例を体感できるテクニカルツアーが実施されました。ツアー参加者は、約200万人が暮らす札幌市を洪水から守り、水の安定供給によって都市の発展に重要な役割を果たしている豊平峡ダムを視察。ダムを貯蔵施設として活用した地場産ワインの試飲会も開催され、ダムが単なるインフラ施設としてだけでなく、流域の産業と一体となって活用されていることが紹介されました。



関係者コメント

アウトリーチプログラム (札幌市 環境都市推進部)

市民講座では、気候変動に関する話題提供を行う機会をいただくなど、札幌市としても関わらせていただきました。国内外の有識者による講演が学びになったことはもちろん、高校生や大学生による発表・パネルディスカッションでは地域課題の分析→地域の強みの活用→実践に至る報告があり、そのレベルの高さに大変驚かされ、未来を担う世代を頼もしく感じたところです。会場・オンラインを合わせて300名以上と大変多くの方にご参加いただき、未来の地球を守るために一人ひとりができることを、国内外の先駆的な研究者とともに一緒に考える貴重な機会となりました。

2024.12.17 - 12.21

第20回世界冬の都市市長会議

@札幌コンベンションセンター他 / 参加者数: 約100名、8か国21都市・団体

世界冬の都市市長会議は、「冬は資源であり、財産である」というスローガンのもと、札幌市の提唱により1982年に第1回市長会議を札幌で開催したことが始まりで、世界中の冬の都市が集まり冬のまちづくりについて学び合う国際会議です。第20回市長会議ではメインテーマを「冬の都市の新たな可能性～持続可能な社会の実現～」とし、参加都市や学術関係者等からの発表や議論を実施するとともに、札幌市民向けイベントや企業向けビジネス交流会などの併催事業も実施されました。

関係者コメント

WWCAM事務局より (札幌市 国際部)

今回の会議では、他の国際ネットワークとの連携を図ったほか、オンラインでの参加も可能としたこと等により、会員都市のみならず、多様な都市や団体の皆様にご参加いただけました。また、行政はもちろんのこと、企業・学術関係者を含めた活発で幅広い議論やイベントが行われ、産学官連携のプラットフォーム創出にもつながりました。今後もこのような取組を通じて、国際ネットワークとしての価値や、札幌市の国際社会におけるプレゼンスの向上、市民への成果の還元を目指していきます。



©札幌市広報課

イベント詳細

wwcam.org

開催が決まった国際会議

2026.10.20 - 10.23

INTERPRAEVENT 2026

@札幌コンベンションセンター / 参加者数: 500名

イベント詳細

www.kokusaisabo.or.jp/
interprevent2026/home.htm

「気候変動下における複合自然災害とリスク管理」をテーマに、世界の技術者・研究者・行政関係者が集う国際シンポジウム「インタープリイベント2026」が札幌で開催されます。インタープリイベントは、オーストリアおよび周辺国で1965年と1966年に相次いで深刻な洪水・土砂災害が発生したことを契機に、急激な災害の増加に対する危機意識の高まりから1968年に学会が設立されました。日本は1992年に本組織に加盟し、2002年に初めて環太平洋インタープリイベント大会を開催しました。2026年大会は日本で8年ぶり、5度目の開催となります。

本大会では、地球温暖化の影響による集中豪雨や大型台風、地震や火山噴火に伴う洪水および土石流、地すべり、雪崩などの複合自然災害の防止・軽減に関する学際的な研究を推進。今後の防災・減災に関する研究と考察を深め、適切な対応策を積極的に世界へ発信するとともに、防災技術・知識の普及を図ることも目的としています。札幌大会では研究発表のほか、北海道内の砂防事業の現地視察研修や市民向けプログラムも予定されています。

開催された国内会議

継承される札幌宣言 APCCHE 2019からの軌跡

2024.09.10 - 09.13

化学工学会第55回秋季大会

@北海道大学 / 参加者数: 2,331名 (現地: 1,920名、オンライン: 411名)、10か国・地域

イベント詳細

www.scej.org

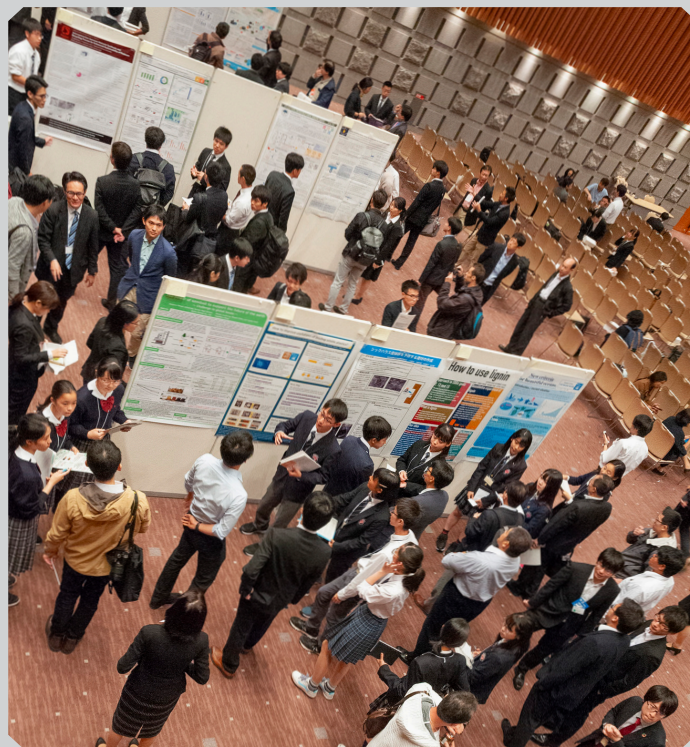
効率性から充足性へ

2019年札幌宣言発表

化学工学会は、化学工学に関する最先端の情報や知見の共有、交流促進を目的に、大学関係者はもとより企業関係者も全国から集結する一大イベントです。札幌で開催された本大会では、北海道におけるカーボンニュートラルや資源循環などをテーマとする多彩なシンポジウムが開催されました。

主催者の公益社団法人化学工学会は、2019年9月札幌開催の第18回アジア太平洋化学工学連合会議 (APCCHE 2019) において『国連持続可能な開発目標 (SDGs) に関する宣言～人々の「健康、安心、幸福」のための化学工学～』と題する札幌宣言を発表しました。本宣言は、AIやIoTなどの新規技術の導入、ジェンダー不平等の是正、社会的弱者や難民などに向けた能力開発の機会創出などが盛り込まれた先進的な内容となっています。中でも「Efficiency (効率性) から Sufficiency (充足性) へ」という文言は特徴的であり、本大会のテーマにも「化学工学の技術で持続可能な社会に貢献する」という意志が継承されています。

札幌宣言についてはこちらから

www.sdgs.scej.org/sapporosengen-ja

©APCCHE 2019 学生プログラムの様子

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

宣言から実行へ
着実な取り組みが続く

化学工学会は札幌宣言の発表以降、実行に向けたさまざまな取り組みを進めています。同学会のSDGs検討委員会の主導により、年会や秋季大会で「SDGs 達成に向けた札幌宣言の実行」という共通テーマに基づく一連のシンポジウムを開催。「男女共同参画」「多様なステークホルダーとの連携」「安全な水の確保」「小島嶼国の持続可能な発展」などのさまざまな課題を取り上げ、議論を重ねています。

海を越えてクアラルンプールへ
APCCHE 2022

2022年8月にマレーシア・クアラルンプールで開催されたAPCCHE 2022では、学生との国際共同ワーク形式による「SDGs Special Symposium」が行われました。さまざまな社会課題を取り上げて対策を検討するシンポジウムがハイブリッド形式で開催され、ボトムアップの研究提案の形にまとめあげる熱い議論が繰り広げられました。

次は中国・北京へ
APCCHE 2025

2025年7月、中国・北京にてAPCCHE 2025と第12回世界化学工学会議が同時開催されます。札幌宣言発表当初から取り組みを率いる野田優教授 (早稲田大学)・藤岡沙都子准教授 (慶應義塾大学) によると、SDGsに関するシンポジウムの開催が決定したとのこと。APCCHE 2019札幌開催のレガシーを受け継ぐプログラムが、これからどのように拡大・発展していくのか、札幌から見守り続けたいと願っています。

民間企業との強いつながり
エルコム社の取り組み

参考

www.elcom-jp.com

APCCHE 2019が生み出したもう一つの大きな成果。それは、海洋プラスチック問題に取り組む地元企業・株式会社エルコムと化学工学会との出会いです。札幌コンベンションビューローが学会へ推薦し、エルコム社が事例発表を行ったことが縁となりました。同分野で先進的な取り組みを展開するエルコム社と化学工学会とのつながりは続き、APCCHE 2022では学生との事前ワークショップに参画。2024年札幌開催の化学工学会第55回秋季大会では、学生が学んだ化学工学の知識やスキルを活かして企業の課題解決に取り組む「キャップストーンプロジェクト」に携わり、同社代表取締役社長の相馬嵩央氏自ら学生の提案をサポートしました。次のAPCCHE 2025ではどんなコラボレーションが生まれるのか、エルコム社からも目が離せません。

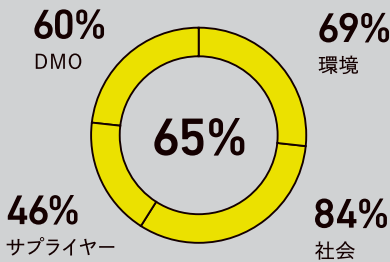
サステナビリティ

Global Destination Sustainability Index (GDS-Index)

札幌コンベンションビューローでは、ビジネスイベント開催地として、都市のインフラ・環境面での取り組みやコンベンションビューローの受入サポート等の評価・改善指導を行う環境指標プログラム「Global Destination Sustainability Index」に参加し、持続可能な都市の実現を目指しています。

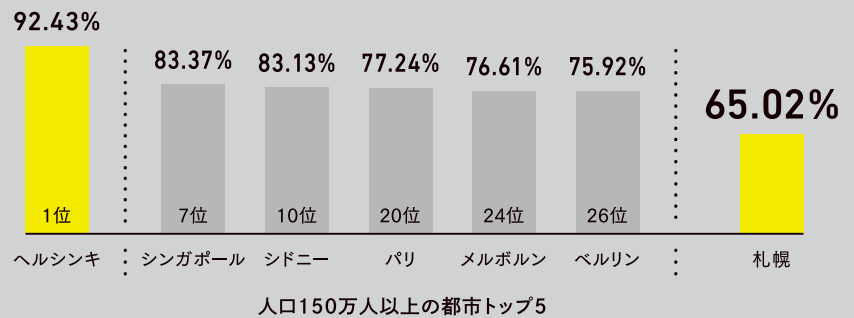


2024年 GDS-Indexスコア



参考 www.gds.earth/destination/sapporo/2024

2024年 都市ランキング



参考 www.gds.earth/index/trends-insights

札幌市、グローバル・サステナブル・ツーリズム協議会(GSTC)加盟

札幌市は2024年11月、持続可能な旅行および観光のための国際基準を制定・管理するグローバル・サステナブル・ツーリズム協議会(GSTC)に加盟しました。GSTC基準をもとに、市民の生活の質の向上、地域の特性を生かした魅力の創造、観光関連産業の持続的成長を支える担い手づくりに取り組み、世界の旅行者に選ばれる持続可能なデスティネーションを目指しています。



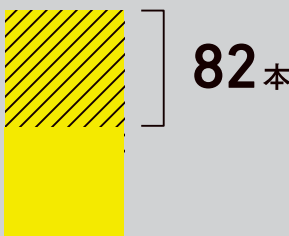
詳細 www.gstcouncil.org/the-city-of-sapporo-joins-gstc/?lang=ja

カーボンオフセットプログラム

札幌コンベンションビューローでは、(一社)さっぽろ北海道MICE振興協会が進めるカーボンオフセット事業と連携し、植林等の森林管理と北海道の野生生物保護活動への寄付を通じて、ビジネスイベントによる環境負担・CO2排出量の削減に取り組んでいます。

寄付額

53,865 円



82 本

これまで植林できた木の本数

176 本 (カラマツ)

*Since 2022

詳細

www.conventionsapporo.jp/sustainability/carbon_offset_jp.pdf

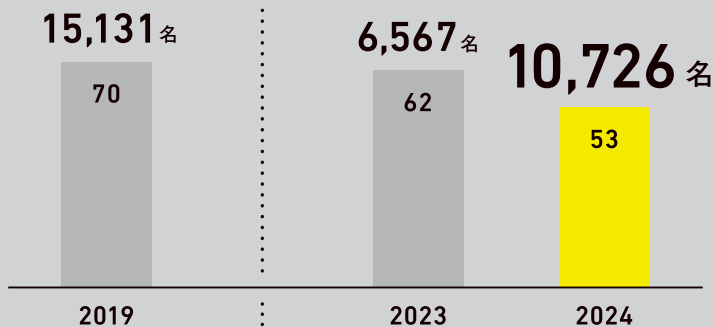


インセンティブ(報奨・研修旅行)統計

対象期間:1月~12月

海外インセンティブ支援件数

2020年3月~2022年10月の期間、COVID-19の水際対策・観光目的の入国制限により、受入・支援無し



国・地域別

	2023	2024	(件)
1位 タイ	15	23	台湾
2位 マレーシア	11	8	インドネシア
3位 インドネシア	8	6	韓国
4位 韓国	7	4	タイ
5位 フィリピン	6	4	マレーシア

開催時期



10月/11月

49%

規模



300名以下

68%

泊数



2泊以上

67%

インセンティブサポートの実施例



札幌ならではの冬のおもてなし

冬の札幌は、東南アジアの参加者にとって憧れのインセンティブ開催地です。コンベンションビューローでは、厳冬期ならではのアクティビティやコンテンツを多くご紹介しています。雪原で行われたパーティには、特別なおもてなしとして企業ロゴ入りの氷像を提供しました。

急伸した台湾・韓国市場

2024年は台湾、韓国からのインセンティブが本格回復した年になりました。両市場からは1,000名を超えるツアーも開催されました。

台湾 1,510名 (飲食業)

韓国 1,166名 (生命保険)



イベント

2024.05.09

ASEANTA年次総会 in 札幌

@札幌パークホテル

ASEANTA(東南アジア諸国連合観光連盟)年次総会が同地域外で初めて札幌で開催されました。本総会にはASEAN地域の観光・MICE業界に強い影響力を持つキーパーソンの多数が参加。札幌市とASEAN地域の観光交流を深めるハイレベルなネットワーク構築につながりました。総会開催に合わせて、両地域のMICE有識者が登壇するシンポジウムや、ユニークなメニューを用いたパーティーなども開催。ASEANTA会長のエディ・クリスマイティ・ソマウィラガ氏は札幌のグリーンシーズンの美しさや自然の魅力に言及し、ASEANTA関連会議の札幌開催にも意欲を示されました。本総会が札幌とASEAN地域との観光・MICE交流のさらなる発展の足掛かりとなることが期待されます。



関係者コメント

フィリピン ツアーオペレーター協会 会長
アージュン・シャーロフ 氏

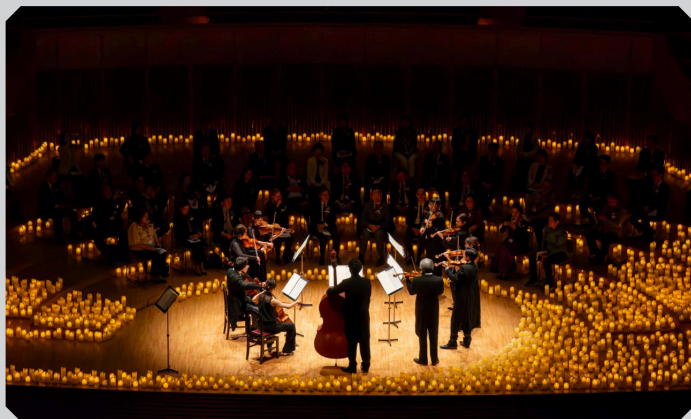
札幌でASEANTA会員のために企画されたプログラムは綿密に計画され、私たち観光業界に関わるものにとって、非常に高い水準を示すものでした。ASEANTAが年次総会を成功裏に開催することができたのは、観光に関連する公的機関から民間の関係者まで、その効率的で卓越したサービスのおかげです。関係者各位に最高の敬意と尊敬の念を抱いています。

※ASEANTA(ASEAN Tourism Association: 東南アジア諸国連合観光連盟)
1971年設立の非営利団体でマレーシアに本部を置き、ASEAN10カ国の政府観光局、ホテル協会、旅行業協会、航空会社等から構成されています。観光情報の交換や市場動向の調査および今後の組織の方向性などを議論するために、年次総会のほかにASEANTA理事・役員及び各国旅行協会代表による会議を年4回程度行っています。札幌コンベンションビューローは、2021年3月に準会員として加盟。



コンテンツ開発

マイ・オーケストラ



ASEANTA総会の開催に合わせて、札幌コンサートホールKitara大ホールにて一夜限りのコンサートを実施。世界的指揮者レナード・バーンスタインが創設した国際教育音楽祭「パンフィック・ミュージック・フェスティバル札幌(PMF)」の歴史が息づく音楽の街・札幌ならではのオリジナルプログラムです。会場内はLEDキャンドルの幻想的な光に包まれ、特別編成された在札幌PMF修了生と札幌交響楽団員による弦楽八重奏・オクテットが、札幌の四季をイメージした楽曲を演奏しました。

ロスフラワー・ゼロ・プロジェクト



ASEANTA総会会場の装飾に使用した花を、翌日に市内の病院施設と保育園へプレゼント。その場限りの装飾で終わらず、新たな価値を生み出しました。札幌コンベンションビューローでは市民へのMICE理解促進とともに、ビジネスイベントのサステナブルな取り組みを続けていきます。

海外連携

大田観光公社との連携

2025年2月、札幌の姉妹都市である韓国・大田広域市にある大田観光公社と国際会議等のMICEの誘致に向け、情報共有や共同PRを強化する「MICE発展のための覚書」を締結しました。札幌コンベンションビューローでは、両市が姉妹都市提携した2010年に、同公社と交流をスタートさせ、2025年に15周年の節目を迎えることから、両団体としてこれまで以上に交流を深め、海外への共同PRや人的交流、情報共有、両市のビジネスイベント受入整備の質的向上に向けた相互協力など、更なる連携強化を目指していきます。



関係者コメント

大田観光公社 ユン・ソングク社長

今回の訪問を新たなスタートとし、MICE産業の発展のため両団体がより創意的で実質的な交流を重ね、アジアを代表するビジネスイベントに係る国際的な連携の成功事例として位置づけられるよう、協力の機会を拡大し続けていきたいと願っています。

参考

www.djto.kr/eng/index.do

イベント

首都圏企業向けイベント

2024年12月、東京都内のビジネス交流スペースEZOHUB TOKYOにて、札幌市東京事務所との共催による初の企業向けイベントを実施。首都圏のIT企業などの関係者40名近くが参加しました。札幌コンベンションビューローからは「ビジネスイベントの価値と企業成長」をテーマとして、ビジネスイベントの開催地としての札幌の魅力についてプレゼンテーションを実施。札幌のユニークベニューの活用やアクティビティなど、ビジネスイベントの可能性について紹介しました。



人材育成

チームビルディング・
ファシリテーター養成講座

札幌コンベンションビューローでは、海外MICEの多様な需要に対応するため、札幌および周辺地域在住の通訳者等を対象に、チームビルディング・ファシリテーター養成事業を実施しました。講義に加え、グループディスカッションや落ち葉アートのチームビルディングを通して、ファシリテート実践体験を行いました。外国語対応が可能なファシリテーターの不足が全国的な課題となっており、今後も地域の対応力向上のため、コンテンツの充実とともに、体制の強化を進めています。

ユニークベニュー & チームビルディングガイド

地域の個性を活かしたユニークベニューやチームビルディングをご紹介します。



WEBサイト

www.conventionsapporo.jp/uv_and_tb/jp

